

『スウェーデンと日本における認知症グループホームの勤務スケジュールに関する実証的研究』（前半）

西 下 彰 俊

目 次

1. はじめに
2. スウェーデンのグループホームの勤務スケジュール
3. スウェーデンにおける介護スタッフの有給休暇に関わる問題（以上本号）
4. 日本のグループホームの勤務スケジュール
5. スウェーデンと日本の勤務スケジュールに関する比較分析
6. 結論（以上次号）

1. はじめに

代表的な福祉国家の1つであるスウェーデンでは、1992年のエーデル改革（Ädel Reformen）により、各コミューン（市町村に対応）が、当該地域の高齢者に対するケア・サービスの全責任を持つことになり、サービスハウス、ナーシングホーム、認知症高齢者のためのグループホームを含む「介護の付いた特別住宅」（Särskilda boendeformer）の基盤整備が進んだ。と同時に、自宅に住む要介護高齢者のためのホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイサービスの整備も進められた。

スウェーデンの高齢者ケア施設は、認知症高齢者の場合であれ、認知症を患っていない要介護高齢者の場合であれ、ユニット制が基本である。ユニット制は、10名前後の高齢者が個室に住みつつ、同じ介護スタッフのもと、共有スペースで食事をしたり社会的交流を行ったりする方式である。

『スウェーデンと日本における認知症グループホームの勤務スケジュール……』(前半)

日本の特別養護老人ホームや老人保健施設のような100名を超える高齢者が入所する大規模高齢者施設はスウェーデンには皆無である。ただし、ユニットが、一つの大きな建物の中に数多く作られ、要介護高齢者の総数が100名を越えるケースは少なからず存在する。スウェーデンで一般的なユニット制に対応するのは、日本では近年急増中の認知症高齢者のためのグループホームだけである。

こうした両国における高齢者ケア施設の違いをふまえ、本研究は、スウェーデンのグループホームやナーシングホームおよび日本のグループホームを分析の対象とし、両国の介護スタッフの勤務スケジュールを比較分析することを目的とする。この比較分析を通じて、両国におけるケアシステムの違いを浮き彫りにすることがここでの分析の狙いである。

2. スウェーデンのグループホームの勤務スケジュール

(1) Härryda コミュニンのユニット Annehill の場合

Härryda (ハリードグ) コミュニンは、スウェーデン第2の都市 Göteborg (ヨーテボリ) の東に位置し、総人口約3万人、65歳以上の高齢者人口約3500人の町である(西下彰俊、2002, p. 32)。最新データでは、総人口は31208人(SCB, 2005, p. 86)、65歳以上3840人、80歳以上960人である(スウェーデン統計局(SCB) HP)。

同コミュニティには5つの介護の付いた特別住宅があるが、そのうち筆者が直接調査したグループホーム Ekdalagården の一つのユニット Annehill (アンネヒル) を取り上げる。このユニットでは、13名の介護スタッフが13名の入居者のケアを行なっている。ここは、ややサイズの大きなユニットであることが特徴である。なお、このグループホーム Ekdalagården では、後述の Lillaråda と異なり5週間を1サイクルとする勤務スケジュールとなっている。表1は、介護スタッフ13名(仮名をAか

らMとする)の第1週目の勤務スケジュール(arbetsstidsschema)を示している。例えば、Aさんの水曜日は、朝6時45分から14時45分まで8時間勤務することを示している。この表を縦に見ると、13名のスタッフの誰かが朝6時45分から介護を始め、スタッフの誰かが夜9時45分まで介護していることが分かる。なお、夜9時45分から朝6時45分までは、夜間専門スタッフ3名が担当する。スウェーデンでは、日中と夜間の介護スタッフを分け、夜間専門スタッフのチームが数チームでローテーションを組み4~5日連続で勤務することが一般的である。夜間専門スタッフは、いくつかのナーシングホームやグループホームを掛け持ちすることが多い。

5時間以上の労働時間に対しては休憩時間が組み込まれており、この勤務スケジュールには、休憩時間が含まれている。表2は第2週の勤務スケジュールを示している。以下、表3は第3週の勤務スケジュールを、表4は第4週の勤務スケジュールを、表5は第5週の勤務スケジュールを、それぞれ表している。

表1 第1週の勤務スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
A	14-21	8-16	6:45-14:45	6:45-15:45	—	8-21	6:45-15:45
B	—	6:45-15:45	8-16	12:45-21:15	6:45-15:45	—	—
C	8-14:15	—	12:45-21:15	6:45-15:45	8-16	—	—
D	16:45-21:45	14-21	8-14:15	—	—	6:45-15:45	8-21
E	—	—	16:45-21:45	8-13	14-21	—	—
F	8-14	12:45-21:15	9-14	—	—	7:15-15:15	10-20
G	8-14	16:45-21:45	7:15-13:15	8-14	—	—	—
H	—	—	—	14-21	7:15-13:15	—	—
I	6:45-15:45	7:15-13:15	—	—	12:45-21:15	16:45-21:45	7:15-15:15
J	12:45-21:15	8-14:30	—	8-13	8-14	—	—
K	7:15-13:15	8-15	14-21	9-14	9-14	—	—
L	8-14:15	9-14	—	—	16:45-21:45	10-20	16:45-21:45
M	—	—	8-14:15	16:45-21:45	8-15	—	—

(資料出所) Härryda Kommun 内部資料 (出典) 筆者作成

表2 第2週の勤務パターン

	月	火	水	木	金	土	日
A	6:45-14:45	—	6:45-15:45	12:45-21:15	6:45-15:45	—	—
B	12:45-21:15	8-16	12:45-21:15	6:45-15:45	—	—	—
C	7:15-16:15	12:45-21:15	8-16	—	12:45-21:15	6:45-15:45	10-20
D	8-14	—	16:45-21:45	8-16	7:15-13:15	—	—
E	16:45-21:45	8-14	—	8-14	8-14	16:45-21:45	6:45-15:45
F	8-14:15	—	14-21	9-14	9-14	—	—
G	8-13	7:15-13:15	8-13	—	16:45-21:45	10-20	7:15-15:15
H	8-15	16:45-21:45	8-15	7:15-13:15	—	—	—
I	—	14-21	7:15-15:15	14-21	—	—	—
J	—	8-14:15	—	16:45-21:45	14-21	7:15-15:15	8-21
K	—	6:45-15:45	9-14	—	—	8-21	16:45-21:45
L	—	—	—	8-14:15	8-14	—	—
M	14-21	9-14	—	—	8-15	—	—

(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

表3 第3週の勤務パターン

	月	火	水	木	金	土	日
A	12:45-21:15	8:15-14:30	6:45-15:45	—	12:45-21:15	6:45-15:45	10-20
B	6:45-15:45	6:45-15:45	8-15	—	—	10-20	6:45-15:45
C	—	12:45-21:15	8-16	8-16	7:15-15:15	—	—
D	14-21	9-14	14-21	8-15	—	—	—
E	8-14:15	—	16:45-21:45	8-15	8-13	—	—
F	8-14	14-21	7:15-13:15	7:15-13:15	—	—	—
G	—	16:45-21:45	8-14	14-21	8-14	—	—
H	8-15	8-15	8-15	9-14	—	16:45-21:45	7:15-15:15
I	8-15	7:15-13:15	—	—	16:45-21:45	7:15-15:15	14-21
J	—	9-14	—	16:45-21:45	8-13	—	—
K	7:15-13:15	—	—	12:45-21:15	9-14	—	—
L	—	—	—	—	14-21	8:15-14:30	16:45-21:45
M	16:45-21:45	8-13	12:45-21:15	—	6:45-14:45	14-21	8:15-14:30

(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

表4 第4週の勤務パターン

	月	火	水	木	金	土	日
A	—	—	13-21:15	6:45-15:45	6:45-15:45	—	—
B	8-14:30	—	13-21	12:45-21:15	8-16	—	—
C	12:45-21:15	6:45-15:45	8-16	8-16	—	—	—
D	14-21	8-15	8-16	—	16:45-21:45	7:15-15:15	7:15-15:15
E	7:15-13:15	14-21	12-16	9-14	—	—	—
F	6:45- 14:45	9-14	8-16	7:15-13:15	—	6:45- 15:45	8:21
G	—	16:45-21:45	8-16	—	—	8:21	6:45-15:45
H	8-14:15	—	13-21:45	8-13	9-14	—	—
I	—	8-14	12-16	14-21	8-14	—	—
J	16:45-21:45	7:15-13:15	12-16	—	14-21	16:45-21:45	10-20
K	8-16	12:45-21:15	12-16	—	7:15-13:15	10-20	16:45-21:45
L	—	—	12-16	8-14	12:45-21:15	—	—
M	—	8-15:30	6:45-16	16:45-21:45	—	—	—

(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

表5 第5週の勤務パターン

	月	火	水	木	金	土	日
A	12:45-21:15	8-16	12:45-21:15	8-14:30	—	—	—
B	6:45-15:45	12:45-21:15	8-14:15	—	12:45-21:15	6:45-15:45	—
C	13-21	8-16	6:45-15:45	—	—	8-21	6:45-15:45
D	—	—	16:45-21:45	7:15-15:15	8-16	—	—
E	16:45-21:45	7:15-13:15	—	—	14-21	7:15-15:15	10-20
F	—	—	9-14	8-13	6:45-14:45	—	—
G	7:15-13:15	—	14-21	12:45-21:15	9-14	—	—
H	8-16	8-15	—	6:45-15:45	8-14	10-20	16:45-21:45
I	—	16:45-21:45	8-15	9-14	8-14	—	—
J	—	14-21	—	14-21	7:15-13:15	—	—
K	—	—	8-16	8-14:15	—	—	—
L	8-14:15	8-14	—	16:45-21:45	—	—	—
M	9-14	6:45-14:45	7:15-13:15	—	16:45-21:45	16:45-21:45	7:15-15:15

(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

表6 Annehill における週ごとの勤務時間 (単位) 時間:分

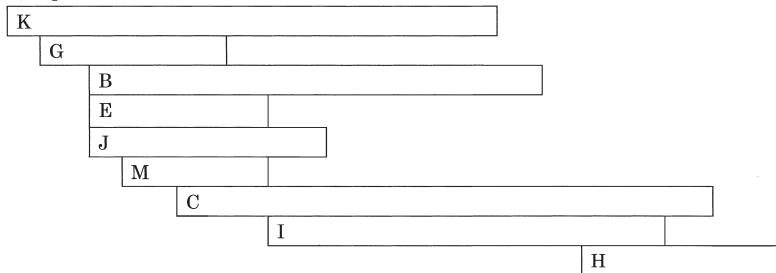
	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	合計	フルタイム換算 (%)
A	50	32:30	48:15	24:45	29:30	185	100.0
B	32:30	32	41:15	29	50:15	185	100.0
C	29:45	49:45	30:30	31:30	43:30	185	100.0
D	37:15	23:30	24:30	40:30	20	145:45	78.8
E	16:30	35	23:15	21	33:45	129:30	70.0
F	35:15	22:15	23	45:30	17:30	143:30	77.6
G	21:30	37:15	22:30	32:30	25	138:45	75.0
H	12	23:30	37	24	42:15	138:45	75.0
I	34:30	20:30	31	21:30	22	129:30	70.0
J	24:30	36:15	15	35:15	18:30	129:30	70.0
K	28:30	30	18:30	39:15	13:15	129:30	70.0
L	30	11:15	17:30	17:30	16:15	92:30	50.0
M	17:15	18	38	20:45	35:30	129:30	70.0

(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

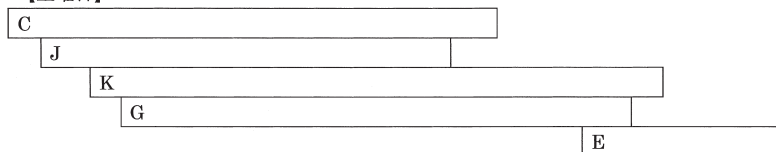
図1 第2週における火曜と土曜における介護スタッフの配置状況

6:45 7:15 8 9 10 12:45 13:15 14 14:15 15 15:15 15:45 16 16:45 20 21 21:15 21:45

【火曜日】



【土曜日】



(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

図2 第2週における介護スタッフの人数変化

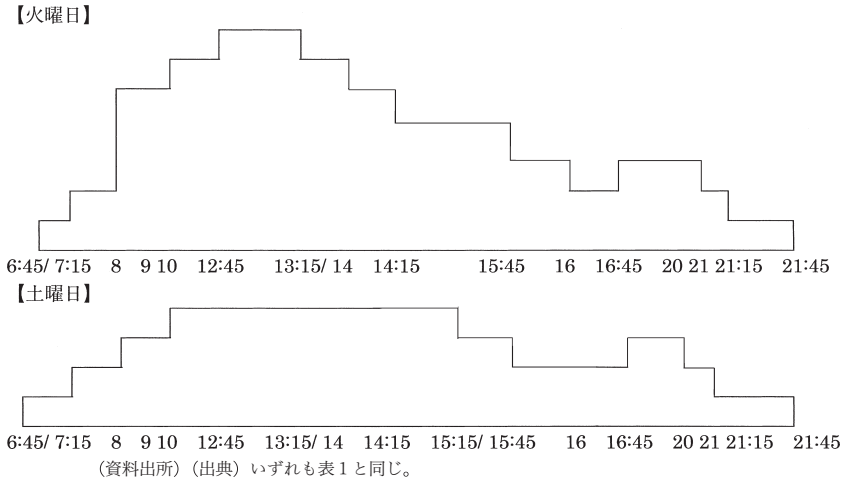


表6は、介護スタッフAからMまでの週ごとの勤務時間を計算したものである。この表6は、休憩時間を除いた「実質の勤務時間」を示している。この表から、「ジェットコースター・シフト」とも形容しうる勤務時間の激しい変動が確認できる。例えば、Aは第3週に48時間15分とかなりの過重労働であるが、翌週は24時間45分と激減する（ジェットコースター・シフトと考えられる部分については、数字を枠で囲んでいる。以下表11から表15についても同様である。）。Bは第4週に29時間と比較的短い労働時間であるが、翌週の第5週は50時間15分と急激に増える。Cは第1週に29時間と比較的短い労働時間であるが、翌週は49時間45分と激増する。同様に、Dは40時間30分（第4週）から20時間（第5週）へ、Eは16時間30分（第1週）から35時間（第2週）へ、Fは45時間30分（第4週）から17時間30分（第5週）へ、Gは21時間30分（第1週）から37時間15分（第2週）へ、Hは12時間（第1週）から23時間30分（第2週）へおよび24時間（第4週）から42時間15分（第5週）へと（I以下は省略する）、ほとんど全ての介護スタッフが勤務時間の激しい変動を経験している。1週間の中で、極めて不規則な勤務時間を経験すること

『スウェーデンと日本における認知症グループホームの勤務スケジュール……』(前半)

に加えて、週ごとの勤務時間のアンバランスな状態を経験することがこの表から明らかとなる。「ジェットコースター・シフト」がほとんど例外なく存在しているのである。図1は、5週間の勤務スケジュールのうち、任意に第2週を、平日のうちから任意に火曜日を選び、週末の土曜日とあわせ、時間の経過とともに介護スタッフの人数がどのように変化するかを図示したものである(図中のスタッフのアルファベットは表1のAからMに対応)。図2は、時間帯によって介護スタッフの人数がどのように変動するかを示したものである。具体的には、早朝6時45分から7時15分まで介護スタッフ1名であるものの、8時以降5名に増え、9時以降は6名、昼食時の12時45分から13時15分は7名と増加している。その後時間の経過とともにスタッフの数は減っている。14時から15時45分までの時間帯は介護スタッフが4名に減り、16時から21時45分までは3ないし2名の体制となる。時間帯によって介護スタッフの人数が大きく変化するのがこのユニットの特徴と言える。なお、土曜日は、10時から15時15分の時間帯は介護スタッフが4名いるが、それ以外の時間帯は1名から3名のスタッフでケアをしている。

確かに介護スタッフ全員の総人数と入居者数の比で言えば1:1ということであるが、介護スタッフの全てが、100%のフルタイムではない。フルタイムは13名中3名のみである。13名の平均は約77%のパートタイマーであることを考慮するならば、単純な人数の比を取ることに積極的な意味はない。フルタイム換算をした上で、介護スタッフ10:入居者13と見るのが妥当であろう。重要なことは、図3、図4が示すように、どの時間帯にいったい何名の介護スタッフが配置されているかということである。

(2) Härryda コミュニのユニット Lillaråda の場合

同じく Härryda コミュニのグループホーム Säterigården (サテリゴーデン) について紹介する。1998年に開設されたこの施設には、3つのユ

ユニットがある。このナーシングホームは3階建てで、1階は Lillaråda と呼ばれ、要介護度の高い高齢者8名が入居しているユニットである。2階には Ekliden と呼ばれる認知症高齢者12名が入居するユニットが、3階には要介護高齢者12名が入居する Fridhem というユニットがある。表7から表10は、この1階の Lillaråda というユニットの介護スタッフの昼間・夜間(6:45~22:00)の勤務パターンを示している。スウェーデンの高齢者ケア施設では、5週間あるいは6週間で1サイクルが終了する勤務スケジュールを採用しているところが多いが、このハリード・コミュニンでは4週間で1サイクルが終了する。昼間・夜間は全部で8名の介護スタッフ(表7から表11において、仮名をOからVと表記)が、8名の入所高齢者のケアを担当する。昼間・夜間の介護スタッフは、准看護師(Under-skätterska)(1)が5名、介護士(Vårdbitrade)(1)が3名という構成であり、女性入居者6名、男性入居者2名合計8名のケアを行なっている。

深夜・早朝(22:00~翌日6:45)は、この時間帯専門の介護スタッフ3名が3ユニット全体の介護を行なう。一人の介護職員が1つのユニット全体8名ないし12名をカバーするという計算になるが、実際にはグループ3人で巡回することが多い。この深夜・早朝の勤務スケジュールは3週間単位であり(表は省略)、3名が2日もしくは3日連続で担当する。このユニットでは、3名が3週間21日のうち6日から8日間仕事をする。3名とも50%から66.7%のパートタイム勤務である。深夜・早朝を専門とする介護スタッフの中には、他の高齢者ケア施設とかけもちをするケースもある。

表11はこのリラローダを担当する介護スタッフ8名の週ごとの勤務時間と、フルタイムで換算した時のパーセントを示している。勤務日ごとに極めて不規則な労働時間であることに加えて、週ごとの勤務時間のアンバランスな状況がこのユニットにおいても確認できる。例えば、Oは第3週に56時間30分とかなりの長時間労働であるが、翌週の第4週は12時間30分と激減する。Pは第3週に13時間とかなり短い、翌週の第4週は

『スウェーデンと日本における認知症グループホームの勤務スケジュール……』（前半）

42時間30分と激増する。Qも第1週に16時間30分と短い第2週は36時間45分と急増する。同様に、Rは55時間（第1週）から10時間15分（第2週）へ、Sは35時間15分（第3週）から7時間（第4週）へ、Tは14時間15分（第1週）から49時間15分（第2週）へ、Uは49時間15分（第1週）から22時間（第2週）へ、Vは27時間（第3週）から46時間30分（第4週）へと急激に変化する。前述したようにこうした週単位で見た勤務時間の大変動を「ジェットコースター・シフト」と呼ぶことができる。前述のユニット Annnehill よりもこのユニット Lillarådaの方がより急激な「ジェットコースター・シフト」を採用していることになる。

表7 第1週の勤務パターン

	月	火	水	木	金	土	日
O	—	8-14	15-21	15-22	—	—	—
P	8-13	—	14-22	8-14	—	—	—
Q	—	—	—	6:45-15	6:45-15	—	—
R	15-22	6:45-11:30	6:45-14:45	—	14-21	6:45-21	8-22
S	7:30-15	15-22	8-14	14-21	8-14	—	—
T	6:45-14	14:30-21	—	—	—	—	—
U	14-21	8-15:30	—	—	15:30-22	8-22	6:45-21
V	—	—	8-14	8-13	8-13	—	—

（資料出所）（出典）いずれも表1と同じ。

表8 第2週の勤務パターン

	月	火	水	木	金	土	日
O	8-14	13:30-16:30*	13:30-22	8-15	—	—	—
P	8-15	13:30-16:30*	—	6:45-11:30	8-14	15-22	6:45-15
Q	14:30-21	6:45-16:30*	—	—	15-22	7:30-15	15-21
R	—	13:30-16:30*	6:45-14	—	—	—	—
S	6:45-14:3	8-16:30*	14:30-21	15-22	8-15	—	—
T	15-22	13:30-21	—	—	6:45-13:15	6:45-21	8-22
U	—	8-16:30*	8-15	8-14:30	—	—	—
V	—	13:30-22	—	14-21	14-21	—	—

（注）*は、介護スタッフ会議の時間を含む。

（資料出所）（出典）いずれも表1と同じ。

表9 第3週の勤務パターン

	月	火	水	木	金	土	日
O	8-14	8-14	6:45-15	—	14-22	8-22	6:45-21
P	—	—	—	8-14	14-21	—	—
Q	—	—	8-14	6:45-14:30	8-15	—	—
R	15-22	8-15	8-14	14-21	—	—	—
S	8-15	—	—	—	—	6:45-21	8-22
T	—	14-21	15-21	8-15	—	—	—
U	14-21	6:45-14:30	14-22	—	—	—	—
V	6:45-13	15:30-22	—	15-22	6:45-14	—	—

(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

表10 第4週の勤務パターン

	月	火	水	木	金	土	日
O	—	—	15:30-22	8-14	—	—	—
P	8-14	6:45-13:15	6:45-14:30	15-22	—	6:45-15	15-22
Q	—	—	8-15:30	8-15	15-22	15-22	6:45-15:15
R	—	—	15-21	14:30-21	6:45-14	—	—
S	6:45-13:45	—	—	—	—	—	—
T	14:45-22	13-21	—	6:45-14	8-15	—	—
U	8-14:30	8-14:30	8-13	—	—	—	—
V	14-21	15-22	—	—	14:30-21	8-21	8-21

(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

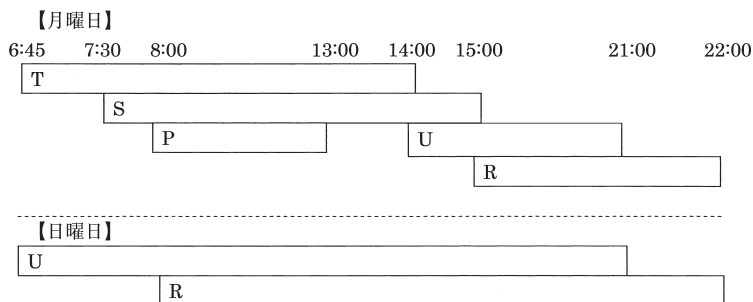
表11 Lillarada における週ごとの勤務時間

(単位) 時間:分

	第1週	第2週	第3週	第4週	合計	フルタイム換算 (%)
O	19	24:30	56:30	12:30	112:30	76.0
P	19	36	13	42:30	110:30	74.7
Q	16:30	36:45	20:45	37	111	75.0
R	55	10:15	27	19:45	112	75.7
S	33:30	36:45	35:15	7	112:30	76.0
T	14:15	49:15	20	29:30	113	76.4
U	49:15	22	22:45	18	112	75.6
V	16	22:30	27	46:30	112	75.6

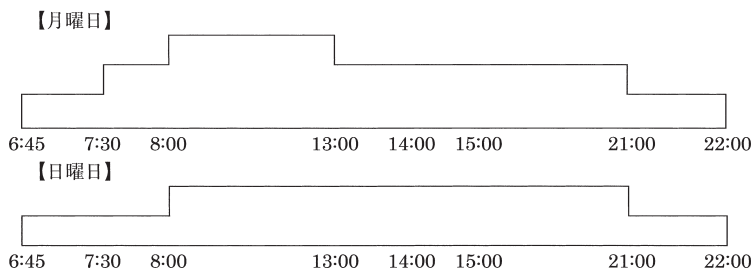
(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

図3 第1週における月曜と日曜における介護スタッフの配置状況



(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

図4 第1週における介護スタッフの人数の変化



(資料出所) (出典) いずれも表1と同じ。

以上詳細に確認した通り、ハリーダ・コミュニケーションでは、かなり変動の激しい勤務体系を採っている。ただし、この変動の激しい勤務体系がハリーダ・コミュニケーションに限られるものであるかどうかこの段階では断定できない。

スウェーデンの高齢者ケアの現場では、1週間で37時間労働する場合をフルタイムとしているが、高齢者ケア施設のような不規則でありかつ労働負荷の高い職場で、4週間で148時間働くというフルタイム労働は困難をきわめる。このLillarådaユニットを担当する介護スタッフ8名全員が75%前後の労働時間となっているのは自らの精神的・肉体的な健康を考えたことであろう。ハリーダ・コミュニケーションの介護職員の平均月収については、フルタイムの准看護師が17250SEK(1SEKは約14円)、フルタイムの介護士が16400SEKである。なお、介護スタッフ8名の国籍は、スウェー

デンが5名、フィンランドが1名、ハンガリーが1名、ボスニアが1名という分布であるが、国籍によって週ごとの労働時間のアンバランスが発生するということはない。

Lillarådaの勤務スケジュールのうち、任意に第1週を選び、平日の月曜日と週末の日曜日に関し、時間の経過によって介護スタッフの人数がどのように変化するかを図示したものが図3である（図中のアルファベットは表7の介護スタッフの仮名に対応）。この図から、時間帯によって介護スタッフの数が増えていることが分かる。すなわち、具体的には、図4が示すように、8時から13時の時間帯は入居者8名に対し3名の介護スタッフを配置しているものの、朝7時30分から8時までと13時から21時までの時間帯は介護スタッフが2名に減り、朝6時45分から7時30分までと21時から翌朝6時45分まではさらに減り1名という状態になる。日曜日はさらに手薄になり、8時から21時までには2名の介護スタッフであるものの、6時45分から8時までと21時から22時は1名となる。確かに介護スタッフ全員の数と入居者数の比で言えばこれまでの文献で紹介されてきたように1:1ということになるが、すでに述べたように、介護スタッフのすべてが75%強のパートタイマーであることを考慮するならば、単純な人数の比を取ることに積極的な意味はない。フルタイム換算した上で、介護スタッフ6:入居者8と見るのが妥当である。むしろ重要なことは、図3および図4で示したように、どの時間帯にいったい何名の介護スタッフが配置されているかということである。8時から13時までの時間帯はまだしも、7時30分から8時までと13時から21時までの時間帯の2名および深夜・早朝および6時45分から7時30分までの1名という介護職員配置数は問題があると言わざるを得ない。この介護スタッフの配置は、他のユニットでは、どのようになっているのであろうか。

(3) Finspång コミュニンのグループホーム Betaren の場合

Finspång（フィンスポング）コミュニティは総人口 22000 人、高齢者人口 4200 人の町である（西下彰俊、2002、p.14）。最新データでは、総人口 21052 人（SCB, 2005, p. 84）、65 歳以上 4200 人、80 歳以上 1260 人である（スウェーデン統計局（SCB）HP）。

表 12 は、Finspång（フィンスポング）コミュニティにある Betaren（ベタレン）の 1 階にあるユニット（ユニットの名称は不明）に関して、アからキまでの 7 名の准看護師（介護保健士）・介護士の週ごとの勤務時間を一覽できる形にしたものである。各週の具体的な勤務スケジュールは省略す

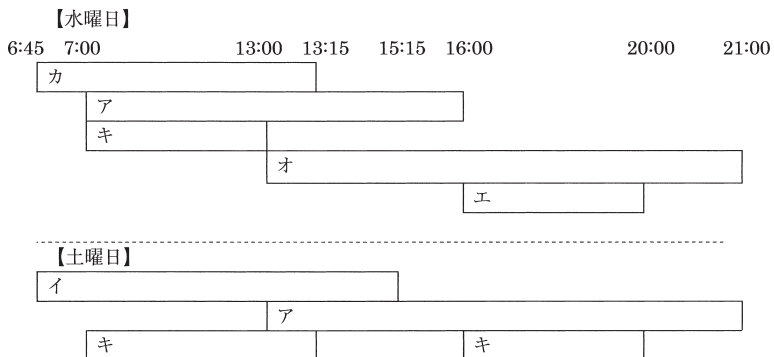
表 12 Betaren における週ごとの勤務時間 (単位) 時間：分

	第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週	第 6 週	合 計	フルタイム換算 (%)
ア	47:30	31:30	47:30	24:30	47:30	23:30	222	100.0
イ	36	18:30	38:30	15	38:30	20	166:30	75.0
ウ	21	38	20:30	40:30	15	31:30	166:30	75.0
エ	15	37	15	36:30	18:30	44:30	166:30	75.0
オ	42:30	21	22:30	42	17:30	21	166:30	75.0
カ	22:30	34:30	19:30	27:30	41:30	21	166:30	75.0
キ	19:30	22:30	39:30	18:30	25	41:30	166:30	75.0

(資料出所) Finspång Kommun 内部資料

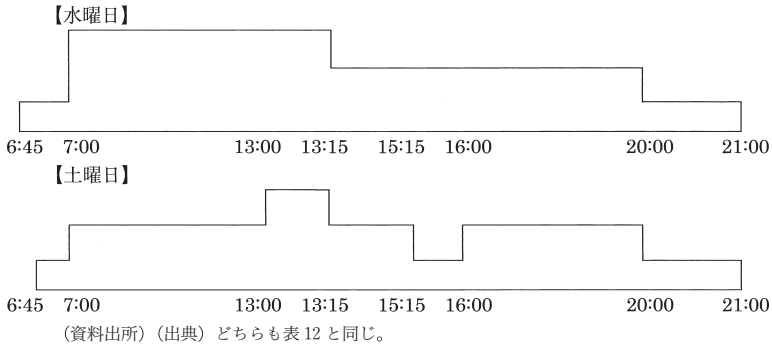
(出典) 筆者作成

図 5 第 3 週における水曜と土曜における介護スタッフの配置状況



(資料出所) (出典) どちらも表 12 と同じ。

図6 第3週における介護スタッフの人数変化



る。すでに指摘した点であるが、Finspång コミューンにおいても勤務時間の激しい変化が確認できる。すなわち、ウの40時間30分(第4週)から15時間(第5週)への変化、エの15時間(第1週)から37時間(第2週)への変化、加えて18時間30分(第5週)から44時間30分(第6週)への変化、オの42時間(第4週)から17時間30分(第5週)への変化などは「ジェットコースター・シフト」と形容しうる勤務時間のアンバランスとしてその問題性を指摘しておきたい。

図5は、6週間の勤務スケジュールのうち、第3週を任意に選び、平日のうちから水曜日を選び、週末の土曜日とあわせて、時間の経過とともに介護スタッフの人数がどのように変化するかを図示したものである(図中のカタカナは表12の介護スタッフの仮名に対応)。図6からは、時間帯によって介護スタッフの数が激しく変動していることが分かる。すなわち、水曜日は、具体的に、7時から13時15分の時間帯は入居者8名に対し3名の介護スタッフを配置しているものの、13時15分から20時までの時間帯は介護スタッフが2名に減り、20時から21時、21時から翌朝6時45分まではさらに減って1名という状態になる。7時から13時15分までの時間帯はまだしも、それ以外の時間帯での2名および深夜・早朝の1名という介護職員配置数は問題があると言わざるをえない。なお土曜日は、7時

『スウェーデンと日本における認知症グループホームの勤務スケジュール……』（前半）から15時15分、16時から20時にかけて2人の介護スタッフでケアをしている。

確かに介護スタッフ全員の総人数と入居者数の比で言えば1:1ということであるが、すでに述べたように、介護スタッフのすべてが、約79%のパートタイマーであることを考慮するならば、単純な人数の比を取ることに積極的な意味はない。フルタイム換算をした上で、介護スタッフ6.4:入居者8と見るのが妥当であろう。重要なことは、図6が示すように、どの時間帯にいったい何名の介護スタッフが配置されているかということである。加えて、別の勤務体系上の問題がFinspång コミューンの場合には存在する。週ごとの勤務スケジュールは省略するが、**オ**・**カ**・**キ**の3名は、7時から13時30分（休憩30分）と16時から20時（休憩なし）の2つの時間帯を週末の土・日連続して担当するという極めてハードな勤務を6週間のうちに2回経験しなければならない。例えば**オ**は、第1週の土・日と第4週の土・日に7時から13時30分と16時から20時に入居者の介護を行う。同様に、**カ**は第2週と第5週、**キ**は第3週と第6週に同様のパターンで勤務する。特に**オ**は、第4週に土・日合わせて19時間勤務するというこうしたハードな勤務スケジュールを経験しなければならないし、翌週は17時間30分しか勤務しないという大きな変動を経験しなければならない。

このように仔細に検討すると、介護スタッフの1サイクルあたりの総勤務時間数だけでなく、こうした「ジェットコースター・シフト」という勤務時間の非斉一性の実態まで踏み込んだ上で、日本と比較したり、スウェーデンの高齢者ケアのあり方を分析し評価したりすることが今後必要不可欠であることが明らかとなる。

(4) Piteå コミュニのユニット Lunden の場合

スウェーデン最北部にあるこのコミュニティは、総人口40000人、高齢者

人口7000人の町である(西下彰俊、2002、p.56)。最新データでは、総人口40662人、65歳以上6913人、80歳以上1626人である(SCB, 2005, p.88)。

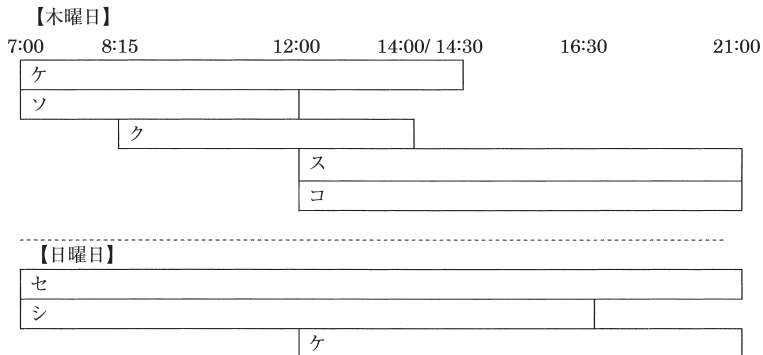
表13は、Piteå コミューンにあるグループホームのユニットLundenに関して、クからソまでの8名の准看護師・介護士の週ごとの勤務時間を一覧できる形にしたものである。なお、各週の具体的な勤務スケジュールはFinspång同様、省略する。Piteå コミューンにおいても、すでにHärnyda、Finspång 両コミュニティの事例で指摘した通り、勤務時間の激しい

表13 Lundenにおける週ごとの勤務時間 (単位) 時間:分

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	合計	フルタイム換算 (%)
ク	21:30	38:15	21	15:30	42:30	138:45	75.0
ケ	28:45	47:45	20:15	26:30	43:15	166:30	90.0
コ	39:30	20	38	16	25:15	138:45	75.0
サ	37:30	20	16:45	39:30	25	138:45	75.0
シ	34:30	19:45	25	38	21:30	138:45	75.0
ス	23:30	16:45	43:30	18	37	138:45	75.0
セ	18:30	37:30	21:30	44:15	17	138:45	75.0
ソ	15:45	16:30	34	15:45	10:30	92:30	50.0

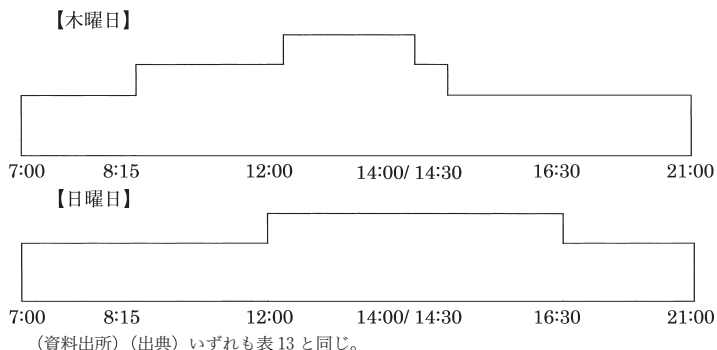
(資料出所) Piteå Kommun 内部資料 (出典) 筆者作成

図7 第4週における木曜と日曜における介護スタッフの配置



(資料出所) (出典) いずれも表13と同じ

図8 第4週における介護スタッフの人数変化



変化が確認できる。すなわち、クの15時間30分(第4週)から42時間30分(第5週)への変化、ケの47時間45分(第2週)から20時間15分(第3週)への変化、コの38時間(第3週)から16時間(第4週)への変化、サの16時間45分(第3週)から39時間30分(第4週)への変化、スの43時間30分(第3週)から18時間(第4週)への変化、セの18時間30分(第1週)から37時間30分(第2週)への変化および44時間15分(第4週)から17時間(第5週)への変化、ソの34時間(第3週)から15時間45分(第4週)への変化などは勤務時間のアンバランス、すなわち「ジェットコースター・シフト」の問題性として指摘することができる。

図7は、Piteå コミュニのユニット Lunden における 5 週間の勤務スケジュールのうち、任意に第4週を、平日のうちから木曜を任意に選択し、週末の日曜とあわせて、時間の経過とともに介護スタッフの人数がどのように変化するのかを図示したものである(図中のカタカナは表13の介護スタッフの仮名に対応)。この図から、時間帯によって介護スタッフの数が変化していることが分かる。これまで詳細に述べてきたユニットの例と比較すると、この Piteå コミュニの場合は相対的に理想的な介護スタッフの配置となっている。すなわち、図8が示すように、具体的には、8時15分から12時までの時間帯は入居者8名に対し3名の介護スタッフ、12

時30分から14時までは4名の介護スタッフが配置されている。介護スタッフが2名に減るのは14時30分以降21時までとなっている。Piteå コミュニティでは介護スタッフが3名ないし4名勤務する時間帯が比較的長い。なお、9時以降翌朝6時45分までは1名体制という状態になる。介護スタッフが手薄になる日曜も11時30分から16時30分まで平日のように3名の介護スタッフがケアをしており、比較的恵まれた配置となっている。財政事情が異なるので、直ちには改善できないのであろうが、他のコミュニティも Piteå コミュニティのケア体制を見習うべきであろう。

(5) Ydre コミュニティのグループホーム Mogården の場合

スウェーデン南部にあり前述の Finspång コミュニティの近くにある Ydre (イードレ) コミュニティは、総人口4200人、高齢者人口900人の小さな町である(西下彰俊、2002、p.15)。最新データでは、総人口3943人(SCB, 2005、p.84)となっている。

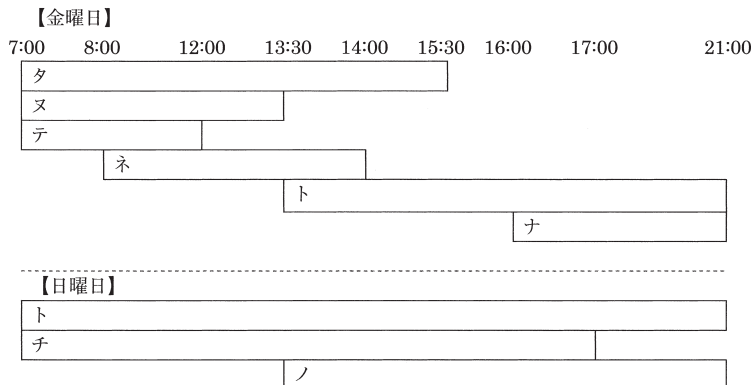
表14は、Ydre コミュニティにある認知症高齢者のためのグループホーム Mogården (モーゴーデン) のユニットに関して、夕からノまでの10名の

表14 Mogården の週ごとの勤務時間 (単位) 時間:分

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	合計	フルタイム換算 (%)
タ	49:45	30	33	48:15	31	30	222	100.0
チ	28:30	49:45	33	30	49:45	31	222	100.0
ツ	31	30	49:45	33	28:30	49:45	222	100.0
テ	31:45	13	22:30	35:15	15:30	25:30	143:30	64.6
ト	23	37:15	17:30	25	40:15	24	167	75.2
ナ	15	9	30:15	16:30	15	25:15	111	50.0
ニ	10	14:30	23	20:30	13:30	22:30	104	46.8
ヌ	32:30	28	18	33	21:30	27:30	160:30	72.3
ネ	8:30	11:30	9:30	10	5:30	10:30	55:30	25.0
ノ	—	18	—	—	18	—	36	16.2

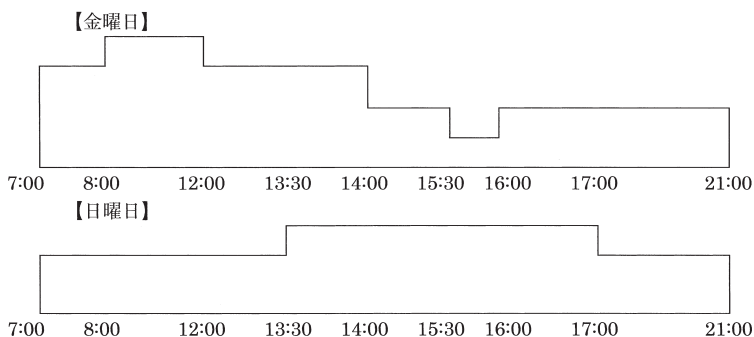
(資料出所) Ydre Kommun 内部資料 (出典) 筆者作成

図9 第5週における金曜と日曜における介護スタッフの配置状況



(資料出所) (出典) いずれも表14と同じ。

図10 第5週における介護スタッフの人数変化



(資料出所) (出典) いずれも表14と同じ。

准看護師(介護保健士)・介護士の週ごとの勤務時間を一覧できる形にしたものである。ユニット名は不明である。各週の具体的な勤務スケジュールは省略する。Ydre コミューンにおいても、すでに Härryda コミューン、Finspång コミューン、Piteå コミューンの事例で指摘した通り、このコミュニティにおいても勤務時間の激しい変化、すなわち「ジェットコースター・シフト」が確認できる。チの28時間30分(第1週)から49時間45分(第2週)への変化、ツの28時間30分(第5週)から49時間45分(第6週)への変化、テの31時間45分(第1週)から13時間(第2週)への

変化および35時間15分(第4週)から15時間30分(第5週)への変化、トの37時間15分(第2週)から17時間30分(第3週)への変化、ナの9時間(第2週)から30時間15分(第3週)への変化などは勤務時間のアンバランスとしてその問題性を指摘できる。また、Ydre コミューンの Mogården のユニットに関しては、ネの25%、ノの16.2%という極端に勤務時間の短い介護スタッフが存在する。ハに至っては6週間のうち2週間のみ、その2週間もフルタイムと見なす週37時間の半分弱の18時間しか入居者のケアに携わらないというきわめて変則的な就労パターンとして存在する。図9は、6週間の勤務スケジュールのうち、任意に第5週を、平日のうちから金曜を選択し日曜とあわせて、時間の経過と介護スタッフの人数の変化を図示したものである(図中のカタカナは表14の介護スタッフの仮名に対応)。また、図10から、時間帯によって介護スタッフの数が変化していることが分かる。Ydre コミューンの Mogården の場合、先の Piteå コミューン以上に理想的な介護スタッフの配置となっている。すなわち具体的には、7時から14時までの時間帯は入居者8名に対し3名の介護スタッフ、とりわけ8時から12時までの4時間は4名の介護スタッフが配置されている。介護スタッフが2名に減るのは14時以降21時までとなっている。Ydre コミューンは、Piteå コミューンと同じく介護スタッフが3ないし4名勤務する時間帯が長い。なお、21時以降翌朝7時までは1名体制という状態になる。他のコミュニティでは介護スタッフが手薄になる日曜も13時30分から17時まで平日と同じように3名の介護スタッフがケアをしており、比較的恵まれた配置となっている。7時から13時30分までおよび17時から21時までには2名の介護スタッフとなっている。財政事情が異なるので直ちには改善できないのであろうが、他のコミュニティも Piteå コミューンや Ydre コミューンの介護スタッフの配置を見習う必要がある。

(6) Umeå コミュニンのグループホームの場合

スウェーデン北部のバルト海沿岸にある Umeå (ウーメオ) コミュニンは、総人口約 10.4 万人、高齢者人口約 12500 人である(西下彰俊、2002、p. 54)。最新のデータでは、総人口 107917 人となっている(SCB, 2005, p. 88)。

表 15 は、Umeå コミュニンにあるグループホームのユニットに関して、ヒからミまでの 6 名の准看護師・介護士の週ごとの勤務時間数を一覧できる形にしたものである。なお、6 週間にわたる具体的な勤務スケジュールは、省略する。このコミュニティにおいても、Piteå、Hårryda、Finspång の各コミュニティの事例で指摘した通り、勤務時間の激しい変化が確認できる。すなわち、ヒは第 2 週 (22 時間) から第 3 週 (52 時間) にかけて、フは第 3 週 (22 時間) から第 4 週 (52 時間) にかけて、へは第 4 週 (18 時間) から第 5 週 (48 時間) にかけて、ホは第 5 週 (18 時間) から第 6 週 (48 時間) にかけて、マは第 1 週 (48 時間) から第 2 週 (23 時間) にかけて、ミは第 1 週 (18 時間) から第 2 週 (48 時間) にかけて、「ジェットコースター・シフト」が確認できる。

図 11 および図 12 は、Umeå コミュニンのあるグループホームのユニットにおける 6 週間の勤務スケジュールのうち、任意に第 1 週を、平日のうちから火曜を任意に選択し、週末の土曜とあわせて、時間の経過とともに介護スタッフの人数がどのように変化するかを図示したものである(図中のカタカナは表 15 の介護スタッフの仮名に対応)。この図から、時間帯によって介護スタッフの数が増減していることが分かる。具体的には、火曜日は 6 時 45 分から 7 時 30 分までの時間帯は 1 名、7 時 30 分から 12 時 30 分までは 2 名、12 時 30 分から 16 時 30 分までは 3 名、16 時 30 分から 21 時までは 2 名の介護スタッフが配置されている。土曜日も平日と殆ど変わらない勤務スケジュールである。

以上、Hårryda コミュニンのユニット Lillaråda およびユニット

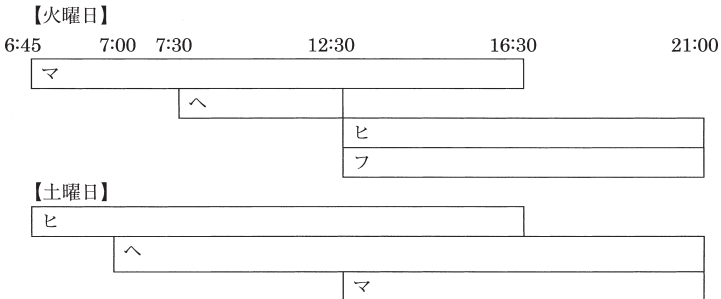
Annehill、Finspång コミューン Betaren のある一つのユニット、Piteå コミューンのユニット Lunden、Ydre コミューン Mogården のある一つの

表15 Umeå コミューンのグループホームの週あたり勤務時間
(単位) 時間

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	合計	フルタイム換算 (%)
ヒ	42	22	52	26	44	34	220	99.1
フ	34	42	22	52	26	44	220	99.1
へ	40	26	38	18	48	26	196	88.3
ホ	23	37	30	38	18	48	194	87.4
マ	48	23	40	31	35	18	195	87.8
ミ	18	48	22	40	34	35	197	88.7

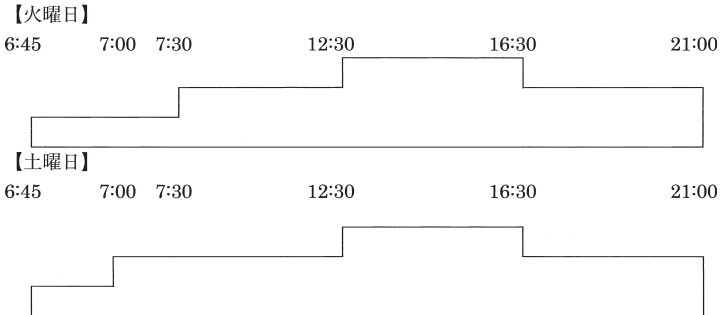
(資料出所) Umeå Kommun 内部資料 (出典) 筆者作成

図11 第1週における火曜と土曜における介護スタッフの配置状況



(資料出所) (出典) いずれも表15と同じ。

図12 第1週における介護スタッフの人数変化



(資料出所) (出典) いずれも表15と同じ。

『スウェーデンと日本における認知症グループホームの勤務スケジュール……』(前半)

ユニット、Umeå コミュニョンのあるグループホームのユニットの6ケースについて、詳細に検討してきた。分析したすべてのユニットに共通しているのは、いずれにも「ジェットコースター・シフト」と名付けることのできる勤務スケジュールの大変動が普遍的に存在することであった。

こうした、「ジェットコースター・シフト」がどのような過程を経て決められるのか、すなわち勤務スケジュール決定に関する施設長と介護スタッフをめぐる政治学については今後の研究に待たなければならない。最近では、「洗濯場スケジュール」(tvättstugeschema)と呼ばれる民主的な勤務スケジュール決定方式を採用しているユニットもある(西下彰俊、2004、p. 62)。具体的には、介護スタッフがそれぞれ働きたい時間帯を自らスケジュール表に書き込み予約をしていくというシステムである。スウェーデンでは、アパートメントの地下に共同利用の洗濯機、乾燥機があり、利用したい日時を限られた期間内に限られた回数分だけ予約することから、この洗濯場という表現が使われている。洗濯場スケジュール方式であるにしても、予約をめぐる「同僚への配慮」といった要素が考えられるので、どのような過程を経て、勤務スケジュールが平和的に決定されるのかについて、詳細な検討が不可欠である。

介護の付いた特別住宅のうち、とりわけグループホームユニットに関しては、入居者である認知症高齢者にとって、介護スタッフの顔ぶれの「継続性」は安心感を確保する何事にも変えがたい大切な要素であろう。北欧の高齢者ケアの重要な理念の一つとして継続性が常にあげられるが、具体的には介護スタッフの「人的・時間的継続性」を言うのであろう。とするならば、本稿で焦点を当てた「ジェットコースター・シフト」は「継続性」を失わせる致命的な構造的問題であると言わざるを得ない。

加えて、時間帯ごとの介護スタッフの配置状況は、図1から図12で示したように、ユニットごとに個性があり多様であった。比較的恵まれた介護スタッフの人員配置をしているコミュニョンもあれば、そうでないコミュニ

ンもある。人員配置の面ではコミューン間で格差があると言えよう。競争入札により民間事業者ナーシングホームやグループホームの運営を委託しているコミューンもあれば、入札制度がなくコミューンが継続的に施設の運営をしているコミューンもある。おそらくこうした格差は、委託された運営主体が当該コミューンからどれだけの運営費を得ているかによって生ずるのであろう。

人員配置の格差は、コミューンごとの民間事業者委託の有無、民間委託への割合、コミューンから支払われる運営費の多寡、各コミューン議会の与党の高齢者ケアに対する考え方など多様な要因との相関によって生じるものであろう。こうした複合的な要因を一つひとつ解きほぐし、具体的に検証していくことが今後の課題である。

加えて、「ジェットコースター・シフト」の実態を、各コミューンやスウェーデン政府がどのように認識し問題解決しようとしているのかについて具体的に検証していくことが今後の課題の第2である。

3. スウェーデンにおける介護スタッフの夏休みとアルバイトに関する構造的課題

スウェーデンの労働者の有給休暇は5週間である。このうち4週間の有給休暇を夏休みを取るのが一般的である。特に、子どもがいる場合には、6月中旬から始まる子どもの夏休みに合わせて、4週間の夏休みを取り残り1週間は年末年始に取ることが多い。

ケアの現場も決して例外ではない。ナーシングホーム・グループホームで働く介護スタッフもホームヘルパーや4週間連続して夏休みを取る。しかし、断るまでもなくケアを必要とする高齢者には休みがないのであって、絶えず他者からのサポートが不可欠である。介護スタッフが有給休暇を取っている間、別のスタッフが代行しなければならない。そのため、スウェ

『スウェーデンと日本における認知症グループホームの勤務スケジュール……』(前半)

ーデンでは、Vikarie と呼ばれるアルバイトが不可欠なマンパワーとして活用され、高齢者ケアの代行を行っている。

コミュニティによって、あるいは介護の付いた特別住宅により差があると思われるが、おおむね次のような方法で夏休み中のケアの体制が維持されている。まず第1に、ナーシングホームやグループホームに勤務する正規の介護スタッフ（フルタイムスタッフ、パートタイムスタッフを合わせて）が、相談により2つのグループに分かれる。1つのグループは6月中旬から1か月間、もう1つのグループは7月中旬から1か月間、それぞれ夏休みを取る。次に、各施設とも、通常のスタッフ数の半分になるわけであるから、残りの半分以上を夏休みのアルバイトで穴埋めをする。夏休みのアルバイトの属性は多様である。社会福祉を専攻する大学生もいれば、そうでない大学生もおり¹⁾、社会福祉を専門的に学ぶ高校生もいれば、そうでない高校生もいる。場合によっては、失業者が入ることもある。第3に、介護の付いた特別住宅の介護スタッフもホームヘルパーもすでに確認したように、4～6週間単位の勤務スケジュールで働いている。夏休みのアルバイトは、この勤務スケジュールに従って、場合によってはジェットコースター・シフトに従って、ケアの仕事を行う。例えばレギュラースタッフのAさんが夏休み中、アルバイトのBさんはAさんの不規則な勤務スケジュール通りに仕事を行う。BさんはAさんに全くなり代わって仕事をするのである。同様に夏休みの後半では、アルバイトのDさんはレギュラーの介護スタッフであるCさんの勤務スケジュール通りに介護の仕事を行うのである。

以上、夏休み中の高齢者ケア施設におけるアルバイトの様子について述べた。筆者が、各地の高齢者ケア施設でたまたま見かけたアルバイトは、2つの例に限らず常勤専門職の介護スタッフと比べて遜色のない働きぶりをしてきたが、アルバイトが全て良質であるとは限らない。質の高いアルバイトを自らのネットワークや口コミで集めることが、施設長に期待され

る最も大きな役割の一つと言われているが、常にパーフェクトと言うわけにはいかないであろう。たまたま良質のアルバイトが確保できケアが実践できているために、スウェーデンではあまり夏休み中のアルバイトのことが問題にされていないようであるが、何故、社会福祉の経験や関心のない高校生や大学生あるいは成人にケアを委ねるのであるのか、理解に苦しむところである。ケアの対象が、認知症高齢者であるという場合も多い。最も高い専門性が必要とされるグループホームのユニットにさえこうしたアルバイトが数多く入っていることに首を傾げざるを得ない。もしこの現状を認めてしまうならば、ケアの専門性、専門職とはいったいなんだろうと疑問を持たざるを得ない。

もちろん、こうしたアルバイトには、最初に働く際には研修が課される。3日間程度、正規の介護スタッフの指導を受けながら、介護の流れや介護を受け持つ入居高齢者の状況について理解を深めることにはなっている。また、スウェーデンでは、レギュラーの介護スタッフが本人あるいは子どもの病気等の事情で介護の仕事が出来ないときに備えて、緊急時に対応できるアルバイトを常々揃えているので、夏休み中にこうした緊急時対応のアルバイトが動員されていることもあろう。

いずれにせよ、アルバイトは3日間程度の事前研修を経験するだけで、1か月から2か月以上の長期にわたって、高齢者ケアの実践を行う事になる。スウェーデンの介護スタッフの多くは、准看護師・介護保健士（undersköterska）である。准看護師は、高校の福祉コースを3年間学習するか福祉に関する成人教育を1年半学習した後に得られる資格である²⁾。3日間程度の事前研修は、こうした准看護師の養成期間に比べてあまりにも短すぎるのではないのであろうか。スウェーデンの高齢者ケアの原則の1つが、「継続性」であるとするならば、夏の間、馴染みの介護スタッフの半数が馴染みのないアルバイトと入れ替わる介護現場のあり方は継続性を阻害する深刻な問題であると言わざるを得ない。翻って考えて見ると、ヨーロ

『スウェーデンと日本における認知症グループホームの勤務スケジュール……』(前半)

ツパ諸国の有給休暇の期間と夏休みの取り方は、スウェーデンと大差ない。つまり、ここで指摘したアルバイトに関する構造的問題はヨーロッパ全体に共通の問題と言うことになる。福祉国家と呼ばれる他の北欧諸国のアルバイト問題について研究することが今後必要不可欠である。(次号に続く)

註

- 1) 例えば、Uppsala (ウプサラ) コミューンのあるグループホームで介護をしていたアルバイトは、スペインのバルセロナ大学でスペイン語を勉強している学生であった。Norrköping (ノルショピング) コミューンでホームヘルパーをしている若い男性のアルバイトは、リンショピング大学で政治学等の社会科学を勉強している大学生であった。
- 2) underskätterska になる方法の一つは、コミュニティが運営する高等学校3年制専門課程(ソーシャルサービス科)を卒業することである。現場実習は3年間で15週間あり、1年次は高齢者ケア関係、2年次は障害者ケア関係、3年次は病院関係で実習を行う。もう一つの方法は、コミュニティが主催する成人向け介護保健士養成講座に参加することである。これは、介護職の経験がある人が対象であり、介護に関連する科目を1年半、集中的に学習する。現場実習は1年半で15週間程度ある。

引用文献

西下彰俊、2002、『スウェーデンにおける高齢者福祉サービスのコミュニティ間格差に関する実証的研究』(研究代表者 西下彰俊、平成12年～平成13年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書)

西下彰俊、2004、介護スタッフの勤務スケジュールに関するスウェーデンと日本の比較分析(その1)、高齢者住宅財団編『いい住まい いいシニアライフ』Vol. 59. pp. 55-62

SCB, HP (<http://wwwh.scb.se/kommunfacta/kfraim.htm>)

SCB, Statistisk Årsbok för Sverige, 2005

[付記]

本稿は、2004年度東京経済大学個人研究助成費『スウェーデンにおける高齢者ケアの構造的問題』（A04-18）の助成を受けて実施した研究の一部である。

なお、本稿第2節「スウェーデンのグループホームの勤務スケジュール」については、以下の文献と重なる部分がある。

西下彰俊「介護スタッフの勤務スケジュールに関するスウェーデンと日本の比較分析（その1）」高齢者住宅財団編『いい住まい いいシニアライフ』Vol. 59. 2004 pp. 55-62

